



基本理念

私たちは、国立病院の使命を認識し、当院を利用されるすべての方々に信頼され、かつ満足していただける医療サービスと生活支援をめざしております。

院長就任のご挨拶

宮城病院長 木村 格



いつも宮城病院をご利用頂きありがとうございます。

私は平成17年9月1日に新しく院長に就任しました木村格（いたる）です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

私は昭和59年から11年間当院に勤務したことがあり、地域の先生や地域の皆様には大変にお世話になりました。この度10年ぶりで戻って来ることができ、たくさんの懐かしい方々に再びお会いすることができました。今、本当に嬉しく感じています。

当院は昭和14年（1939年）この地域の人のご尽力で開設され、以来一貫して専門医療を実施してきました。ご利用いただくお一人おひとりの方に高い医療安全性と心を込めた丁寧な医療サービスを職員一同心掛けております。

当院の主な医療分野についてご紹介いたします。

- (1) 神経筋の病気に対する総合治療センターとしての役割：宮城県神経難病医療ネットワークでの拠点病院として、確定診断とセカンドオピニオン外来、病名告知から病態に応じた多角的な治療戦略、リハビリテーション、在宅療養支援まで、精神的支援も含めた総合的な医療を展開しています。
- (2) 脳血管障害（脳卒中）の先端的治療センター：発症危険リスクの管理や脳ドックなど発症予防対策、超急性期から機能回復、社会復帰まで脳神経外科と神経内科専門医が連携して脳卒中ユニットで治療を担当。
- (3) 総合リハビリテーション施設認定病院：脳卒中と変性疾患、内部障害に対する急性期から回復期リハビリテーションを実施。特に、失語症、高次脳機能障害、嚥下障害、転倒防止、呼吸リハビリテーションなど特化した診療機能をもっている。
- (4) 小児慢性疾患と重症心身障害児（者）医療：隣接する宮城県立養護学校と連携し、長期の療養と療育を実施。
- (5) 地域医療への貢献：気管支喘息などアレルギーの病気、一般外科、消化器科、エイズ治療拠点病院などです。

私自身の紹介を兼ねて、ここに略歴をお示しいたします。

- 昭和45年4月 東北大学医学部卒業
- 昭和51年4月 東北大学大学院医学専攻科博士課程修了
- 昭和56 - 58年 米国マイアミ大学神経学教室臨床フェロー
- 昭和59年3月 国立宮城病院臨床研究部長から副院長
- 平成07年4月 国立山形病院長、山形大学医学部臨床教授
- 平成15年4月 国立西多賀病院長、東北大学医学部臨床教授
- 平成17年9月 国立宮城病院長に就任



病院職員一同が心をつなげて、ご利用頂く方のお気持ちを大切に、そしてここで最高の医療を安全に、心を込めて行ないたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

講演「全身性真菌感染症について」を企画して

院内感染防止対策研修として9月26日(月)大会議室において、「全身性真菌感染症について」と題した講演会を東北感染制御ネットワーク研究会事務局の荻原淳一氏(ファイザー株式会社学術部)を講師に企画しました。

微生物には基本的分類で細菌、ウイルス、真菌の三種類があり、その中で真菌の体内における病原性については一般的に認識されていないのが現状です。



I C T (院内感染対策チーム)副委員長 加藤 敏夫

講演内容としては、人間は昔から食品(お酒・チーズ)等でカビとの付き合いは長いですが、一方では人体に病原性もあり、表在性真菌症としての皮膚糸状菌症(水虫)などが知られているとの話につづいて、今回のテーマは全身性真菌感染症となっていますが、深在性真菌症に重点を絞った講演となりました。深在性真菌症としては、カンジダ感染症、クリプトコッカス感染症、アスペルギルス感染症が大部分を占めております。深在性真菌感染症は菌種の同定が困難で起炎菌の検出が遅れると抗菌薬の選択に手間取るので、細菌性感染症が排除できれば真菌の抗体価測定等で早期に特定し対応が必要になる。また、カンジダ菌は腸管の常在菌として、他の菌も環境に存在するので院内感染にも注意が必要となる。最後に、深在性真菌症の診断・治療ガイドラインを作成中なので出来次第配布したいとの内容でした。

今回の講演では、感染症の原因菌として真菌の存在も考慮して治療を行うことと、院内感染対策としても必要性があることを再確認できたのではないかと思います。



職場紹介

～ 第2病棟 ～

当2病棟は今年の6月にリニューアルオープンし2階に移ってきました。病棟改築を行ったことにより病棟全体が明るくなり、併せてなによりも明るく、生き生きとした元気な21名のスタッフが日々看護をさせて頂いております。

当病棟には神経内科(内科を含む)・外科・消化器科・小児科(慢性気管支喘息)の混合病棟となっております。看護体制も今年の3月より固定チームナーシングを導入し、患者一人ひとりにあった安全で安楽な看護を提供できるように患者・家族とのコミュニケーションを大切に、それぞれの目線に合った看護を共に考えていく努力をしております。患者さん一人ひとりがその方らしく生活できるよう「その方のもてる力に働きかけていく」事を当病棟の看護のモットーとし、日々、看護に研鑽しております。

また、自宅に帰られる方には、退院してからの不安に対し、患者さんとご家族が安心できるよう、地域の方との連携を取りながら在宅支援にも力を入れているところです。

(2病棟看護師長 小関裕子)



<宮城病院との思いで>

私にとって宮城病院は身近な存在で、物心付いたころより出入りしていたように思います。地域に密着しており、昔は二本の高い煙突が町のランドマークのようにあったり、兄弟、親戚、知り合いが勤めていたり、親子ともども畠山所長官舎に出入りしていたり、働いている人やその子供たちがある種都会的であったりしたのを思い出します。

当時は建物も古く、廊下は油引きで暗く、迷路のようにつながっており、クレゾールの匂いがし、そして伝染すると世間から教わっていた結核病院であった事で怖さと物珍しさとあいまって、子供心に冒険心をくすぐる場所でもありました。こんな中で自然に医療や地域のかかわりを意識するようになった様に思えます。

20数年前ここに外科、整形外科、胃腸科を開業し、充実した診療をしていましたが、時代の流れとともに医療環境、医療制度などとともに患者さんのニーズも変化し、また介護保険制度の発足とともに患者さんの流れも大きく変わってきました。診療してみても思ったことは、人を診る、人生をサポートするという事は手術が出来たり、病気の治療が出来たり、相談に乗れたりするだけでは不十分であり、一生涯を通して安心出来る生活のスタイルを構築することが必要であると痛感し、介護老人保健施設、ケアハウス、グループホーム、ヘルパーステーションがニーズとして出てきた訳であります。

これからは医療と介護が老後の人生を支える両輪としてサポートして行くことが大切であると考えております。患者さん、地域の皆さんに安心して人生を送って戴く為に今後も宮城病院の協力を得て頑張っていきたいと思っております。



平田 外科 医院 の ご 紹 介

診療科 / 胃腸科、外科、整形外科、皮膚泌尿器科、
肛門科、理学診療科(リハビリテーション)、麻酔科
住 所 / 〒989 - 2201
宮城県亶理郡山元町山寺字石田21 - 3
電 話 / 0223 - 37 - 4055

生活習慣病を予防しよう 看護部から ~高脂血症編~

高脂血症の治療の基本は「食事療法」「運動療法」「薬物療法」ですが、今回は運動療法についてお話しします。

運動することにより体のエネルギーが消費され、その消費されたエネルギーを補うために脂肪の分解が活発になっていきます。その結果、肥満が解消され、高脂血症による動脈硬化の発病や悪化を予防するのに役立ちます。運動療法のポイントとしてはある程度の時間(30分位)をかけて手や足、背中などの体の中の大きな筋肉を継続的に動かすようにすることです。ゴルフを週1回というのでは効果はあまり期待できません。運動療法として一般的に取り上げられているものとしては、距離を目安にした運動と、心拍数の増加を目安にした運動があります。日常生活の中では手軽にできる歩行やジョギングなどが適しています。

< 運動療法の進め方 >

- ・目標運動量 スピード：80～100m/分 距離：3km/日 20km/週
(1分間に100～130歩)(1日30～40分)
- ・ステップ 軽い運動から開始し徐々に増やしましょう。
(1日10分から開始し2～3日毎に10分程度ずつ増やす。)
- ・心拍数 120/分を超えない範囲で行いましょう。
目安：心拍数(拍/分) = 138 - (年齢 / 2)
- 注 意 点 汗をかいた時は水分補給を忘れないようにしましょう。
体調が悪いときはお休みしましょう。



診療案内

平成17年10月1日現在

診療科別		月	火	水	木	金
内科			仙台医療センター医師	仙台医療センター医師		仙台医療センター医師
総合内科				今井 尚志		今井 尚志
神経内科	新患	藤井 玲子		久永 欣哉		藤井 玲子
			木村 格		木村 格	
	再来				久永 欣哉	
			今井 尚志	澁谷 聡	松本 有史	
		岩崎 祐三	菅野 重範	久永 欣哉	平岡 宏太良	
呼吸器科		芦野 有悟				
消化器科		阿部 毅	検査	検査	阿部 毅	検査
高血圧/リハ外来		佐藤 智彦			佐藤 智彦	
循環器科						県南中核病院医師
アレルギー科		堀川 雅浩	大島 武子	堀川 雅浩	大島 武子	堀川 雅浩
小児科	午前	堀川 雅浩	大島 武子	堀川 雅浩	大島 武子	堀川 雅浩
	午後		小児アレルギー (堀川 雅浩)	(第1・3)乳児検診	療育相談 (大島 武子)	
外科		岩附 昭広	岩附 昭広	手術日	岩附 昭広	岩附 昭広
脳神経外科		志田 直樹	安藤 肇史	志田 直樹	手術日	安藤 肇史
皮膚科					第4(木)のみ 東北大医師	
リハビリテーション科				(第2・4午後)新藤 恵一郎 (入院患者対象)		
歯科		小西 寛子	小西 寛子	小西 寛子	小西 寛子	小西 寛子
専門外来	パーキンソン病外来			久永 欣哉		
	A L S 外来			今井 尚志		
	漢方外来	佐藤 智彦			佐藤 智彦	
	頭痛外来	佐藤 智彦			佐藤 智彦	
	脳ドック	佐藤 智彦			佐藤 智彦	

受診される方へ

受付時間は8:30～11:00です。

土曜日・日曜日・祝日・休日及び年末年始(12月29日～1月3日)は休診です。

ただし、救急の方は随時受け付けいたします。

お問い合わせ先 0223-37-1131

初めて当院を受診される方は、他の医療機関からの紹介状をお持ちください。紹介状がなくとも受診はできますが、その場合初診時に2,625円を負担していただくこととなりますので予めご了承ください。

交通のご案内

自動車でおいでの方

仙台方面から

仙台市中心部から南へ約40km、国道4号線6号線の分岐点から南へ約20km、国道6号線314.5kmポイントの位置です。

相馬方面から

国道6号線を仙台方面に向かい、宮城・福島県境から約10分です。

交通機関をご利用の方

仙台方面から JR常磐線山下駅下車、タクシーで約5分

相馬方面から JR常磐線坂元駅下車、タクシーで約5分

